

TOMcat-EJ の構築と東海目録が目指す司書の能力開発について

福武亨^{1,2)}, 春日井泉江^{1,3)}※, 里川得美子^{1,4)}※※, 鈴木てる子^{1,5)}, 原紀子^{1,6)}※※
谷沢尚子^{1,7)}※※, 小林晴子¹⁻²⁾※

1) 東海地区医学図書館協議会東海目録ワーキンググループ, 2) 愛知医科大学総合学術情報センター, 3) 名古屋記念病院図書室, 4) 国立病院機構三重病院医局図書室, 5) 磐田市立総合病院図書室, 6) 岐阜県立多治見病院図書室, 7) 焼津市立総合病院図書室
※JHIP, Distinguished, ※※JHIP, Basic

1 はじめに

東海地区医学図書館協議会東海目録は、東海地区の病院図書室、大学図書館のうち会員館の総合雑誌目録である。その運営元である東海地区医学図書館協議会東海目録ワーキンググループ（以下「東海目録WG」）は、2018年4月よりKITOcatの後継の一部として会員館が契約する電子ジャーナルの所蔵目録「TOMcat-EJ」の運用を開始した。

2 TOMcat-EJ の構築について

これまで総合目録検索システムの構築、保守は業者へ委託していたが事業撤退に伴い再構築する必要が生じた。結果的に、総合目録検索システムの代替はNACSIS-CATと東海目録WGによるTOMcat-EJに至った。NACSIS-CATでは各病院図書室等の電子ジャーナルの契約状況はわからないことから、それを補完する役目をTOMcat-EJが担っている。なお、現在、TOMcat-EJは、オープンソースソフトウェアであるWordpressを採用している。

3 課題と今後の活動について

今後の運用にあたって東海目録WGが直面している課題は司書の能力を有し、かつ基本的な情報処理能力を有する人材が少ないことである。基本的な情報処理能力を有することでシステム運用や改善が行えると同時に病院図書室等の業務改善にも繋がると考えた。現在は、Wordpress勉強会を開催し、その後もメンターを設置し疑問に答えられるようにする等の活動を行っている。今後はTOMcat-EJに様々な機能を会員館によって追加していけるようになることが目標である。